



## 社会を一変させる新産業 (20年前のドラッカーの予測)



9月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所  
2020年9月1日(火)

事務所の金城なつみさんが、ドラッカーのネクスト・ソサエティ(2002年5月ダイヤモンド社発行)を読み終わって言った。「ドラッカーの著書から、もうすぐ20年が経ちますが、出現する新産業って何でしょう?」。それって、書中でドラッカーが述べている、「絶対とはいかなくともかなりの確率をもって予想できることがある。それは今後20年間に、相当数の新産業が生まれるであろうことである。しかもそれらのほとんどは、IT、コンピュータ、データ処理、インターネット関連ではないであろうことである。このことは歴史の先例が示している。」という文章を指してのことである。

一体どのような新産業が現れるのであろうか。

ドラッカーの言う、過去の発明による大きな社会変化は、第一に、1455年のグーテンベルクによる印刷機と活字の発明に続く聖書の大量出版と、60年後のルターの新しい宗教観と聖書の大量配布。印刷革命は、キリスト教の教えの正しさを再確認させ、書籍の出版、学校の開設など知識や技術の世界的普及により新産業を創出し、社会を変えた。

第二は、1774年ジェームス・ワットの蒸気機関の改良の成功。1829年に鉄道が現われ、技術的発明や距離を超えた人間活動は、経済力の飛躍的發展を可能とし、世界の経済と社会と政治を一変させた。

コロナ下の今、社会を一変させるような新産業とは何だろうか。

それは再生可能エネルギーだと思う。20年前にはエネルギーの仲間にも入らなかった太陽光、風力、水力、地熱、バイオなどの再生可能エネルギーの活用が実用化し、本格化してきている。

2017年の世界の再生可能エネルギーの発電手法に占める割合は、福島原発事故などを経て約25%と原子力の2.5倍にまで成長し、年々増加している。これがドラッカーの言う社会を変化させる新産業であると思う。

10数年前から世界最大の人口国、中国は再生可能エネルギー大国を目指し、アメリカは、バイオベンチャーなどを経済成長の鍵として実現を計画している。EUは現実的な計画として2050年までにすべての電力を再生可能エネルギーでまかなうことを目指している。世界はこの競争に参加し、今後、再生可能エネルギー産業は、国家的レベル、企業レベルとも大きな発展が予想される。

福島原発事故を起こした日本は、周回遅れとまで言われている開発の遅れを取戻す急務があるのではないか。